

ス ペインとの縁は、スペイン料理・スペインバル巡りが好きで、2014年4月からスペイン語を学び始め、翌年1月に通っているスペイン語教室からマドリード・グラナダに語学研修に行ったことがきっかけでした。そこで「カミーノ・デ・サンティアゴ」のことを知り、いつか歩きたいな！と思っていましたが、カミーノ経験者の方々のご指導や導きがあり、和歌山県田辺市発行の熊野古道とカミーノが表裏になっている巡礼手帳を入手し、2015年9月に、2つしかない世界遺産の道の「熊野古道」をまず歩き、翌年1月に距離にして800kmある「カミーノ」のサリアからサンティアゴ・デ・コンポステーラまでの100kmを完歩することが出来ました。その道中では、持参した鍼シールと鎮痛の五行アロマで、巡礼仲間をケアしました。

このカミーノのご縁から同年9月に、スペインの美しい村30選の人口千人の村、アルベルカで耳つぼ療法と東洋医学について2日間のセミナーを開催することになりました。アルベルカは夏の避暑地ですが、冬の寒さは厳しくまた湯船を浸かる習慣もないため冷えている方が多いので、身体を温める治療をしています。鍼が苦手な方には、リフレクソロジーや腸セラピー、オイルトリートメントもしています。

また、このセミナーをSNSでご覧になった、人口15万の大学都市、サラマンカに在住の日本人女性から鍼灸治療とリフレクソロジーの依頼を受けました。ここはアルベルカの北東にあり、治療後、在住日本人の方への毎月の治療を依頼されましたが、それは難しいため年3回行くことにしました。



▲サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼事務所のスタッフの女性と記念撮影



▲2大巡礼の道完歩記念のバッジ
ホタテ貝とヤタガラス



▲2大巡礼の道、熊野古道とカミーノの完歩記念証

そ もそも医療の世界へ向かったのは、私自身が体調を壊したことからです。大学卒業後、航空会社の地上勤務に就職し、早朝・午後とシフト制で起床時間が一定しない状態を9年間ほど続けて体内時計が狂い皮膚や婦人科系に不調が現れてきたのです。病院でも明確な回答は得られず、ホリスティック医学、代替医療等の書物を片っ端から読みました。その中でもっとも影響を受けたのが、統合医療を提唱されているアンドリュー・ワイル博士の著書で、その世界に入りたいと思ったのです。

退職し、リフレクソロジーやボディーマッサージ等の学校



ほしかわ なおみ
星川 直美さん

専門学校鍼灸学科第34期昼間部卒業
(星川鍼灸院/NAOはりきゅうセラピールーム/NAO ACU ACADEMIA)

で資格を取り、整骨院等でリフレクソロジストとして仕事をするなかで、スキルアップとしてアロマセラピーを学びに行ったロンドンの学校で、アロマセラピーが医療として取り入れられているのを見て、もっと深く医療の現場で働きたい、そのためには国家資格を取ろうと、帰国後すぐに森ノ宮医療学園専門学校鍼灸学科を受験しました。

学校の授業は、東洋医学を学べるというので、すごく楽しく、深い内容の勉強ができて嬉しかったですね。それから何より素晴らしいのは先生方のご指導です。1つ質問するといろんな方向から回答を出してくださる。例えば、終末医療について尋ねるとすぐに見学できるクリニックを紹介していただいたり、中国研修にも飛び入り参加させていただいたり…。卒業後もそれは変わらないですね。

開 業以来往診専門で、ウィークデイは数箇所のグループホームで高齢者の方の治療をしています。まず体験治療をしていただいて、その後にご家族や施設長さんからオファーをいただきます。私が治療に行くのを待っていてくださってありがたいです。治療法は施設からの依頼で電気のお灸や刺さない接触鍼をすることもあります。どうやったら患者さんの状態が少しでも良くなるかが課題です。

開業以来ずっと治療を休むのが不安で、年末年始も休まず、1月に少し休みをいただくだけでしたが、年3回2週間のスペイン行きを始めてから、患者さんにもご理解いただいて、治療をお休み、または振替させていただいています。

一人でも多くの方に東洋医学の良さを知っていただいて鍼灸を受けていただきたい。そして最終的にはセルフケア。ご自身で病気になる身体を作っていただくことです。気負いはなくて、多くのご縁で導いていただいたことをやって行っているという感じです。

カミーノを歩いてから自分の魂が喜ぶことをやっていこうという感覚が芽生えたように思います。世界遺産の道は素晴らしい体験ができるので、学生さんも卒業生の皆さんもぜひ行っていただきたいです。



巡礼の道(カミーノ)。1月のガリシア地方は雨。